

かえるレース

昭和五十八年度 四年男児

日曜日、東町の広場に行って、かえるをさがしました。こしをかがめて、草を分けると、かえるがかくれるようにしています。

「あっ、見つけた。」

と言って、かえるを虫かごに入れました。五ひきぐらいつかまえると、かえるレースをして遊びました。

最初に、予戦レースをしました。ぼくは、

「よおい。ドン。」と言おうとしたけど、かえるだから、

「よおい、ゲゴ。」と言いました。かえるがと中で曲がったりしたらこまるので、ゴールにミミズをおきました。

でも、かえるはもどったり、曲がったり、あちこちにとびました。そのたび、ゴールの方に向けてやりました。「ほら、行げえ。よし、ぬがせ、ぬがせ。」と何回も応えんしました。ようやくゴールに入ったかえるには、ミスターシービーというけい馬の中で強い馬の名前をつけました。二回目はミスターとのさまというかえるが勝ちま

した。いよいよ決勝レースです。ミスターシービー対ミスターとのさまの一っきうちをしました。やく一メートルくらいのきよりです。そのレースはどちらもゆう勝しただけあって、ぬいたりぬかれたりを何回もくりかえしました。ぼくは大声で、

「ガンバレ、ガンバレ。ぬがせ、ぬがせ。」とどっちにも応えんしました。ちよっとのさで、ミスターとのさまが勝ちました。それで、ほうびにミミズをやりました。ミスターとのさまは前足でミミズを大事そうにつかんで食べました。ぼくは明日もまた遊ぼうと思ってミスターシービーとミスターとのさまのせ中に青い絵の具を目印につけてにがしてやりました。

次の日、また広場に行って二ひきのかえるをさがしました。青い目印をたよりにさがしたのですが、みつきりません。十分ぐらいして、一ぴきのかえるを見つけました。ぼくはミスターみかけないとつけました。やっと、見つけました。ミスターシービーは草むらのぬれている所をぴよんぴよんとんでいました。ミスターとのさまはぬれていない所でゲコゲコないていました。その三びきてレースをやりました。一回目はゆうゆうとミスターみ

かけないが勝ちました。二回目も三回目も勝ちました。ミスターみかけないは、ほかの二ひきのかえるよりも大きく馬力があつたからです。

夕ごはんの時、かえると遊んだことをお父さんとお母さんに話しました。お父さんは、

「ちゃんとできだけえ。」と感心していました。お母さんは

「なんで、そげだごとして遊ぶな。」とごげでいきました。でも、ぼくは、

「とっても、おもしろいよ。」と言いました。